

分類することでビジネスを考えるワークショッププログラム

土屋 正人

「自分たちの知識や経験を、どのようにビジネスに活かせるか？」をテーマにワークショップを行いました。参加者は、今後を担う若手・中堅のエンジニア 10 数名。今回は、そのプログラムを紹介します。

プログラムを考える上で参考にしたのが、**諏訪良武氏、山本政樹氏の著書「サービスサイエンスによる顧客共創型 IT ビジネス」**です。この本では、サービスを次の3つに分類しています。

- モノ提供サービス
- 情報提供サービス
- 快適提供サービス

自分たちのやっているサービスは必ずしもこのどれかに分類されるものではなく、重なり合うサービスもあるでしょう。3つのサービス円からなるベン図で可視化することで、

- 自分たちのサービスがどこに相当するか
- なぜこのような状態になっているのか
- 相当するものがないエリアで出来るサービスはないか

といったことを考えるきっかけが得られます。これも前述の書籍からヒントを得ました。

◆ プログラムと配置

プログラムは以下の通りです。

- オープニング(30分)
目的およびプログラムの共有、お互いを知る
- 現状の共有(30分)
技術のビジネス展開に最も重要な問題は何か？
それを引き起こしている根本原因は何か？
- 施策の議論(80分)
根本原因の解消にどのような施策があるか？
自分の持つ知識や経験で何に寄与することができるか？
- クロージング(10分)
ワークショップのふりかえり

配置は、参加者が動きやすいよう、半円を描いて椅子に座るようにしました。机は道具置き場として使いました(図1)。

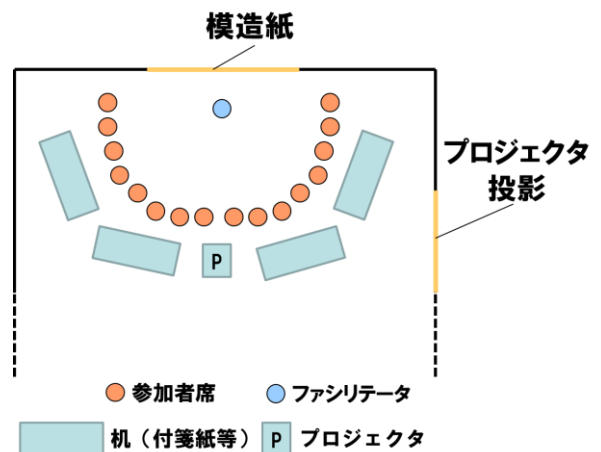


図1 配置

◆ 現状の共有

最初に、自分のやっているサービスの棚卸しをやってもらいました。大きな黄色い付箋紙に太いペンで書き出します。1枚に1項目で書いてもらいました。

続いて、前述したベン図を書いた模造紙(予め会場の壁に貼り出しておきます)の該当する場所に、棚卸しした付箋紙を貼り出してもらいます(図2)。

人数の関係で2グループに分けて行ったので、それぞれのベン図が出来た時点で両者をマージしてもらいました。マージしたベン図を見ながら、次の視点で議論してもらいました。

- 何故こうなっているのか？
- 何が不足しているのか？
- 重ねることで強化できるサービスはないか？
- サービスが薄いところはこのままでいいか？

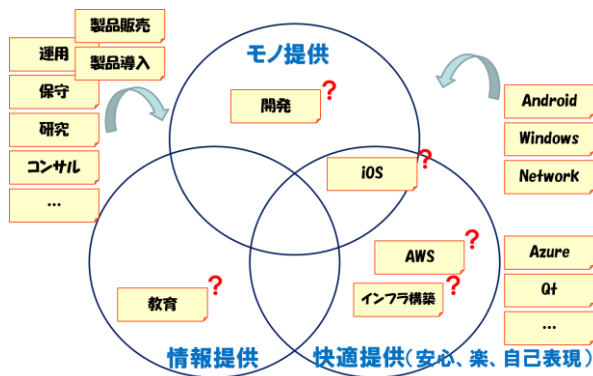


図2 サービスの議論

問題・原因、必要なもの・不足しているものを、該当する黄色い付箋紙の周辺に、ピンクの付箋紙に書いて貼り出してもらいます。議論を通して、保有技術をビジネス展開する際の問題と原因を共有してもらいました(図3)。

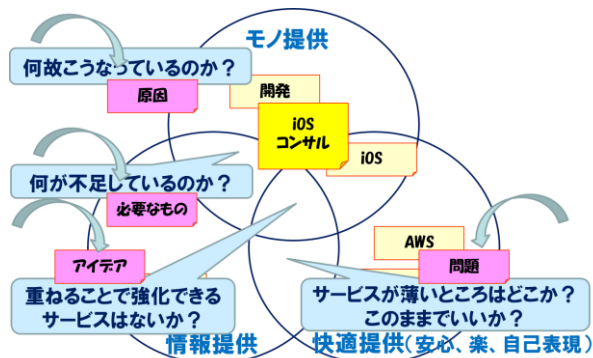


図3 原因の議論

◆ 施策の議論

原因解消のためにどのような施策があるかを、ベン図を見ながら議論してもらいました。思いついた施策は、該当するピンクの付箋紙の周辺に、青い付箋紙に書いて貼り出してもらいます(図4)。

途中から技術交流の場として、自由に意見交換してもらいました。

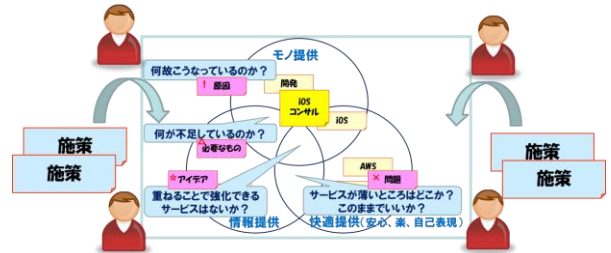


図4 施策の議論

◆ ふりかえり

「現状の共有」の棚卸しの際、保有している技術要素も書き出してもらったため、サービスの粒度が細くなりすぎました。その結果、技術要素単独では3つの分類のどこに位置するのか判断が難しく、時間が足りなくなっていました。

また、サービスを顧客から見える価値(顧客の視点)で考えるか、顧客に提供しているもの(技術者の視点)で考えるかの統一が不十分で、こちらも時間が不足してしまいました。予め、どの視点で考えてもらうかの合意を得ておくべきでした。

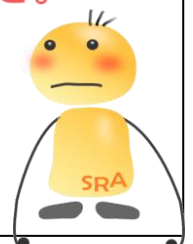
これらの点を改善して、プログラムをブラッシュアップすることができたらと思います。

ワークショッププログラミングの参考になれば幸いです。

GSLetterNeo Vol. 98
 2016年9月20日発行
 発行者●株式会社SRA 先端技術研究所
 編集者●土屋正人

バックナンバーを公開しています●<http://www.sra.co.jp/gslletter>
 ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします●gsneo@sra.co.jp

夢を。



株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋2-32-8

夢を。Yawaraka Innovation
 やわらかいのバージョン